



静岡県の幼児教育の質の向上を目指して

# わっ！ぴょん通信

発行・編集 静岡県幼児教育センター TEL054-221-3287 FAX054-221-3558

## 「こころざし」をもち、たくましく生きる子の育成

～心豊かな たくましい子～

森町立園田幼稚園

厳しい残暑がようやく和らいできた十月初旬、運動会に向かう活動に全園児で取り組んだ後の学年ごとの活動を参観しました。

年少組は牛乳のおやつの時間でした。5名がテーブルに丸くなって冷たい牛乳を飲んでいました。口々に先生に話しかける子どもと一人一人の話を傾け優しく話を聞く先生との温かな時間が流れていました。子どもが安心して自分を出せるための環境や援助を研修している園田幼稚園。より丁寧な保育を園経営の基本としている学級の雰囲気を感じることができました。



年中組は、17名です。みんなで明るく歌を歌った後、どんな障害物競争をやろうか話し合っていました。「球をぶつける。」と意見が出ると、先生が「球をぶつけるのはどうですか？」とみんなに質問。「オッケー！」の返事と共に球を投げる動作をする子ども達。その様子を受け止め、先生は「Aちゃんも同じですか？」と尋ねると、A「ちがう。」先生「何がちがうの？」A「こうして(腕を素早く動かす)」先生「あー、勢いが違うんだね。」B「どれくらいなの？」A「200！」みんな「エーッ、それじゃ大きくなっちゃうよ！」と大笑い。思いつきやそれぞれのイメージで話す子ども達に、先生は分かりやすく言葉を言い換えたりみんなの意見を結びつけたりして、話し合いをまとめていきました。

年長組 15名は、自分たちで考えた障害物競走をしようと園庭に出るところでした。スケーター乗りやなわとび、トンネルくぐり、草跳び越し、綱くぐりなど、子ども達が今まで遊んだものの中から話し合って決めた障害物競走。用意をし、準備に取り組む子どももいればバツをつかまえて遊ぶ子ども、縄跳びをしている子どももいます。先生が大きな声で指示を出すこともなく、皆、自分のペースで準備に参加していました。ゆったりと時間が流れ子どもの力で準備ができると、自然に子ども達が集まり作戦会議が始まります。「エイエイ、オー！」。綱くぐりの綱を押さえる子どもやゴールテープを持つ子ども、遊びながら話し合い、役割分担もしっかりとできていました。主体的な子どもの姿の中に、子ども達の発達に繋がる保育の実践への成果がいっぱい表れていました。



### \* ティーム園田幼稚園を支える言葉

『命を預かって 力を合わせる(助け合い 支え合い、補い合う)』

自分(家族)を大切に、そして人を大切に』

# リフレクションシート活用研修 富士市

富士市保育幼稚園課では、令和 2 年度から毎年、公立幼・保・こども園を対象にリフレクションシート活用研修を開催しています。今年は、私立園にも広げ、33カ園より 70 名余りの方に参加いただきました。

第一部は、静岡大学の田宮教授がファシリテーターを務め、松野こども園の宮部保育教諭が報告した「ハートだから売れたんだよなあ」のエピソードをもとに 10 名が語り合い、他の参加者はその様子を参観しました。エピソードの内容は、やりたい遊びに自分から取り組めなかった Y 君が保育者の声掛けで遊び始め、徐々に主体的に遊びを楽しんでいったというものでした。報告に対し活発な質疑応答、ファシリテーターからの一歩踏み込んだ発問により、子どもの表れが多面的に捉えられ、その時々保育者の思いを共有することができまし



た。たとえば、Y 君の気持ちを探るために Y 君の行動を肯定的によく見ていたこと、Y 君が得意な折り紙で力を発揮するだろうと推測したこと、物をあげるという行為が友達関係を広げる手立てになると考えたこと、Y 君の社会性の育ちを願っていたこと等です。Y 君が葛藤を繰り返しながらも意欲を高め満足感に向かう過程や Y 君の中で育ちつつある力、保育者の的確な幼児理解とそれに基づいた評価の妥当性を確認することができました。

第二部は、3~4名のグループでいくつかの項目を取り上げ話し合いました。「個別的な深い関わり」は、保育形態や時期によっても異なるが、エピソードで話し合うことを通してより良い関わりが見えてくるということを実感しました。「美しい形やパターンに触れる」は子どもの必要感に基き子どもの立場で考えること、「足場かけ」とは援助全てのことで保育の基本で

あることなど、言葉を深く掘り下げた話し合いができました。

初めて参加したいまいづみ幼稚園の赤井副園長は、「普段の保育の一コマを語り合うところに保育プロセスの質の向上が潜んでいることがよく分かった。グループ協議のわくわくした空気感を味わうことができた。」と感想を述べていました。



# インタビュー

## 山梨あづさ さん

沼津市教育委員会教育企画課指導主事



### 1 これまでの経歴と現在の担当・内容を教えてください。

平成 17 年度から小学校教員として、途中産・育休も挟み勤務してきました。令和 3 年度より沼津市教育委員会教職員研修センター指導主事として 2 年間勤務し、今年度からは教育企画課の指導主事として、幼保小連携などを担当しております。

### 2 沼津市の幼児教育の特色について教えてください。

沼津市の幼保小連携で目指す子供像は「自己肯定感が高まり、自分もまわりの人も大切にできる子」です。生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期から学童期に、安心できる人間関係の中で自己肯定感を育てることが大切です。公立私立含めて、沼津市内には多くの幼児教育施設があり、それぞれの園で特色ある保育・教育がなされています。幼保小で取組を共有し、共通した目標を持って、教育・保育を進めていけるような体制づくりを進めています。

### 3 幼保小の円滑な接続について大切にしていることを教えてください。

幼児教育と小学校教育の垣根をなくし、互いの保育・教育への理解を深めていくことが大切だと考えています。子供たちが幼児期に培ってきた学びを大切にし、小学校での生活や学びに円滑に向かえるよう、教職員同士の研修や子供の交流などを深めていく必要があります。沼津市では、令和 5 年度から幼保小連携合同研修会を開催し、市内の幼保小の先生方が一同に会して教育講演会と連携協議会を行い、継続的に連携を図る体制の構築に向けて取り組んでいます。

### 4 山梨指導主事にとって、(幼児)教育の魅力とは何でしょうか。

#### また、印象的な幼児の遊ぶ姿がありましたら教えてください。

子供たちとともに学び、自分自身も成長できることが何よりの魅力です。素直でありのままの言葉やその子自身の感性で表現される行動に学ぶことはたくさんあります。日頃のちょっとした変化もそうですが、運動会や卒業式など、子供たちがかっこよく、たくましく見えた時には、感動します。教員として、子供の成長に立ち合うことができることは幸せなことだと感じます。子供たちへの「ありがとう」の気持ちはずっと大切にしていきたいです。

## 市町主管課訪問を行っています

県と市で情報を共有し連携を一層強化するために、9月より市町主管課訪問を始めました。各市町の幼児教育推進体制や各園の教育課程、安全管理体制など、紙面での調査では把握しきれなかった事等も見えてきました。各市町の体制が従前より進むよう、市町の状況に応じた助言や情報提供に努めていきます。

## わたしのたからもの どんぐりマンション

元磐田市立幼稚園長 大場富恵 さん



もう、20年近く前になるでしょうか。東海北陸国公立幼稚園長会石川大会の記念講演で、どんぐりは木の実の総称で21種類あるという話を聞きました。全種類を集めたいという思いが膨らみ、職員や保護者にも協力を求め集め始めました。まあばしい、しらかし、すだじい、こなら、くぬぎ、かしわは市内でも見つけれました。子ども達も、家族と公園に遊びに行つて見つけたと言つては持って来てくれました。最後まで集まらなかったのは、沖縄と名がつく「オキナフウラジオガシ」と「オキナフジイ」。あるべくしたご縁でしょうか。全国国公立幼稚園教育研究協議会沖縄大会に参加することとなり、そこで出会った先生と友達になり、送ってもらうことができました。

「どんぐりの背くらべ」という言葉がありますが、ほとんど差がないという意味。しかし、21種類のどんぐりにはそれぞれ名前があり、色も形も大きさも微妙に異なり特徴があります。子ども達も同じで一人一人違い一人一人に良さがたくさんあります。「みんな違ってみんないい」。

秋には必ず園便りに載せました。保護者の感性が子どもの感性、興味関心につながり、今まで何気なく踏みしめていたどんぐりが愛おしい宝物に変わったとの声も聞かれました。

おなじみの1・2番に続けて歌っている園もあるかもしれません。

どんぐり ころころ (幻の3番)

どんぐり ころころ ないてたら  
なかよし こりすが とんできて  
おちばに くるんで おんぶして  
いそいで おやまに 連れてった

一説によると「どんぐりころころ」の作詞家である青木存義さんによると「あえて3番をつくらなかった」ともいわれています。その理由は「子どもたちに自分でつくってほしいという希望があったから」なのだそう。子どもたちの豊かな発想力に「どんぐりころころ」の未来を託したのですね。実は、「幻の3番」として世の中に広まっていった歌詞があります。「幻の3番」は1986年、作曲家・岩河三郎氏によってつくられました。童謡らしく親の愛情が込められた歌詞に……という想いが込められているそうです。